(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

「長期」「分散」がカギ

投信フォーラム２０１３ｉｎ新潟

資産運用の有効な手段である投資信託について学ぶ「投信フォーラム２０１３ｉｎ新潟」が５月18日、新潟市中央区の県民会館で開かれた。ファイナンシャルプランナーとして活躍する「ＦＰアソシエイツ＆コンサルティング」代表取締役の神戸孝さんが、賢いファンドの選び方や長期投資の有効性などを解説。続いて「野村アセットマネジメント」の畦地理代さんとともに、14年１月から始まる少額投資非課税制度（日本版ＩＳＡ）のメリットと注意点を説明した。約３００人の参加者は、リスク分散の方法など資産運用への理解を深めていた。また、糸魚川市出身のフリーキャスター伊藤聡子さんの特別講演では、自身の体験を交えながら、コミュニケーションの大切さについて語った。

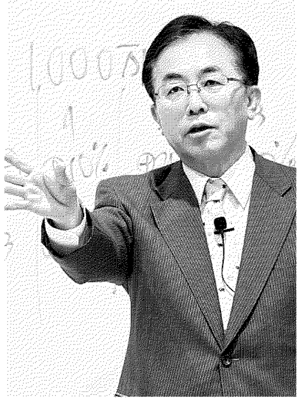
主催／一般社団法人投資信託協会、新潟日報社、全国地方新聞社連合会
後援／金融庁、金融広報中央委員会、財務省新潟財務事務所、信託協会、全国銀行協会、日本証券業協会、日本損害保険協会、日本取引所グループ（東京証券取引所、大阪証券取引所）、不動産証券化協会、共同通信社

企画・制作／新潟日報社企画事業部

資産運用の基本と投資信託の活用方法

～「良いファンド」・「良くないファンド」の見分け方～

決め手は忍耐、理性、科学



神戸　孝氏

かんべ・たかし　ファイナンシャルプランナー。三菱銀行、日興證券を経てＦＰアソシエイツ＆コンサルティング設立

個人の資産運用は、金融資産の分別から始めます。お持ちの金融資産を「生活資金」「ゆとり資金」「残す資金」の三つに分けます。生活資金は半年分の生活費。流動性、換金性が大切なお金で、絶対に投資に充ててはいけない。銀行の普通預金や定期預金など、すぐ下ろせる金融商品にしておきます。ゆとり資金は、車の買い替えや子どもの進学などに使うことが決まっているお金です。すぐに現金化できる必要はないものの、使うべきときに減ってしまっていて足りないでは困るので、定期の預貯金や個人向け国債など、安全性第一に選びます。この二つの資金を除いたのが、残す資金。その金額だけが投資に向けて良いものです。

次に認識してほしいのは「投資」と「投機」は違うこと。「投機的な行為」を投資だと思っている人が多い。投機とは、短期で値上がりしそうなものを当てにいくこと。情報の収集力と分析力と資金量ではプロの方が有利です。でも個人投資家は「時間」が武器になります。途中で株が値下がりしても、最後に上がっていればいいからです。アメリカの株式市場は現在、最高値を超え、持っている人全員がプラスになっている。こういうときが来るまで「待てる」のが個人投資家です。「時間」がプロに勝る武器となるので、短期ではなく、長期投資を勧めます。

リスクとは「ブレ」

長期運用でお金を増やす際の力強い味方が「複利効果」です。利息に対してもさらに利息が付くので、運用期間が長くなるほど財産が大きく増えていきます。複利効果が最大限発揮されるには「ブレ」が小さいことが重要です。このために、ルーレットでいえば、必ず赤と黒の両方に賭ける「分散投資」の考え方が重要になります。

複利効果はもろ刃の剣。もうかる時はさらにもうけを増やすが、損すると損も拡大させる。ブレが大きいと複利効果を敵に回してしまうことも。複利効果を味方にするには、大きく負けないことが大事。分散投資は「急がば回れ」でお金を増やす方法だと考えてください。

しかし、実際に分散投資をしている人が多くないのは、多くの人がリスクを「損」と誤解しているからでしょう。社会通念上、リスクは「危ない」「損」を意味しますが、投資では「ブレること」「決まっていないこと」を意味します。

例えばタクシーが２台あって、１台は10回乗ったら10回事故を起こす。もう１台は10回乗ったら１回事故を起こす。どちらの方がリスクが高いか、といえば、社会通念上は10回乗って10回事故を起こす方です。しかし投資の世界では、10回乗って10回事故を起こすタクシーはリスクゼロ。事故を起こすことが決まっているから。１回事故を起こすタクシーの方がリスクが高いということになるのです。

リスクを覚悟するというのは損ではなく、ブレを覚悟するということです。分散投資をすると、リスクが減るというのはブレ幅が小さくなり、大きく負けにくくなること。だから長期運用では分散投資が大切なのです。

組み合わせが大切

長期投資に必要なのは忍耐。そして、赤が出ると思っても、同時に黒にもチップを置く理性が必要になります。分散の仕方にもいろいろありますが、その一つが値動きの方向やタイミングが異なるものを組み合わせること。そうすれば大きく負けにくい。

金融商品は値動きの方向が似たものでいくつかのグループに分けられ、そのグループ一つ一つをアセット・クラスといいます。まずは、個人向け国債や銀行の定期預金といった短期金融商品のグループ。無リスク資産ともいいます。無リスク資産とは値動きしない、つまりブレない財産です。リスク資産のうち、国内債券、国内株式、外国債券、外国株式の四つのグループを伝統的４資産と言います。そのほかにＲＥＩＴ（不動産投資信託や、コモディティ（商品）のグループがあります。運用期間を基本10年と考えて、これらを組み合わせます。ブレ幅が小さくなるように、いかに上手に組み合わせるか。まさに科学の世界といえるでしょう。

以上のことが理解できたら、自分のリスク許容度を調べ、投資スタンスに合ったポートフォリオを作成します。リスク許容度に応じて、無リスク資産とリスク資産をどのくらいの割合で持てばいいかが決まります。具体的な商品は、無リスク資産なら定期預金、個人向け国債、ＭＲＦ・ＭＭＦなどです。リスク資産は、アセット・クラスごとに選んでいきます。初心者には投資信託がお勧めです。

「比率」常に確認を

投信を選ぶ際、良いファンドと悪いファンドの見分け方を知っておく必要があるでしょう。国内の投信は約５千種類。良いファンドを見つけるには「シャープレシオ」という物差しを活用しましょう。シャープレシオはリターンをリスクで割った答え。この数値が大きいほど、小さめのリスクで大きめのリターンを得てきた、運用がうまいファンドといえます。

シャープレシオは、モーニングスターという会社のホームページなどで簡単に検索できます。ぜひ活用してください。パフォーマンス情報という欄のトータルリターン、パーセンタイルランク、順位の三つは、ファンドの過去のリターン情報です。四つ目のシグマ（標準偏差）は、ファンドが過去どれだけブレてきたかという数字です。これが、そのファンドのリスクです。リターンはマーケットの状況次第で、数値は期間によって大きく異なります。でもリスクの数値は期間が違っても大きくは変わらないということが分かるでしょう。相場が良くても悪くてもファンドのブレ幅はほぼ同じくらいなのです。

自分が持っているファンドのシャープレシオを確認し、似たようなファンドよりもシャープレシオが低ければ乗り換え、良いファンドなら保有し続ける、といった乗り換えの判断基準にも使えるでしょう。

投資を続ける中で、いつ売ればいいか悩むこともあるでしょう。長期投資の継続中は完全に売り切ることはありません。ポートフォリオを作成したときの比率と比べ、今の比率がどうなっているか確認してください。比率は時間の経過とともに変化します。比率が狂ったら、元の比率に戻すために一部売ります。値上がりしているものを売り、値下がりしているものを買う。これをリバランスといいます。

値動きが違うものを同時に持つとブレは小さくできますが、それだけではリターンは上げられません。長期投資でリターンを上げるためには、定期的に比率を元に戻すことが有効です。リバランスを行うことで、もうけが積み上がっていくはずです。長期投資に必要なのは勘と度胸と祈りではなく、忍耐と理性と科学なのです。

来年１月から始まるＮＩＳＡ

上手に使えばプラスに

セミナー後、神戸さんと「野村アセットマネジメント」の畦地理代さんが対談し、２０１４年１月から始まる日本版ＩＳＡ（愛称・ＮＩＳＡ＝ニーサ）を紹介した。

日本版ＩＳＡとは少額投資非課税制度のことで、ＮＩＳＡはその愛称。新規に投資する上場株式、公募株式投資信託、ＥＴＦ（上場投資信託）、ＲＥＩＴなどが対象で、そこから得られる配当所得・譲渡所得などが非課税となる。投資上限額は毎年、新規の投資額で１００万円。非課税期間は５年。投資総額は最大５００万円だ。対象者は満20歳以上の日本居住者となっている。

注意点として畦地さんは、①ＮＩＳＡ口座と、他の口座（特定口座や一般口座）との損益通算ができない②口座は１人１口座しか作れないことを挙げた。また口座を開設する金融機関を選ぶポイントとして「安心して相談できるところを」とアドバイス。神戸さんも「資料を取り寄せ、仕組みをよく理解した上で決めてほしい。上手に使えばプラスになる制度」と、活用を促した。

特別講演

コミュニケーション術とは？

～話し下手キャスター奮闘記～

まっさらな心で対峙

伊藤　聡子氏

いとう・さとこ　糸魚川市生まれ。情報番組のＭＣを経てフリーキャスター、事業創造大学院大学客員教授

私は子どもの頃から緊張しやすく、どちらかというと話し下手。授業中、先生にあてられると、下を向いてモゴモゴするようなタイプでした。そんな私がなぜマスコミの仕事を選んだのか。きっかけは大学在学中にありました。

それは、中国で起きた天安門事件や冷戦終結前に相次いだ東欧からの亡命を報じたニュースです。画面を通して、何かを変えようという人々のエネルギーがひしひしと伝わってきました。世界は変わろうとしている。「世界の動きを肌で感じられる仕事がしたい」と強く思いました。

デビューは「サンデーモーニング」（ＴＢＳ系）という報道番組です。現場からの中継が仕事で、原稿を書いて繰り返し読み込み、一言一句覚えて本番に臨む。ただ、なかなか緊張が抜けず、上手に話せませんでした。ハプニングで、本番中に15秒ほど沈黙したこともあります。

ある日、プロデューサーから「この仕事には向いていない。あと半年出演したら田舎に帰りなさい」と、クビ宣告を受けました。分かっていたとはいえショックでした。

しかし捨てる神あれば拾う神あり。バラエティー番組のオファーが来たのです。その番組は、桂三枝（桂文枝）さんと私が司会。やっぱりうまく話せなかったのですが、それを共演した芸人さんから面白がられたり、どつかれたりするんです。

そのうち「テレビだって自然体でいいんだな」と気付かされました。この番組に出ることで初めて、明るい自分を出せました。

そうなると、サンデーモーニングでも自然に、自分の言葉で話せるようになりました。そして、「スーパーモーニング」（テレビ朝日系）のメーンキャスターを、というお話をいただきました。

実はテレビ朝日のプロデューサーにも同じようなことを言われました。「きみはそんなに話が上手じゃないね。でもテレビは言葉が全てじゃない。人柄も大事。ゲストの話を一生懸命話を聞きなさい」

だから番組では、ゲストに気持ちよく話してもらうことを心掛けました。そして、いつの頃かゲストの方から「伊藤さんに聞かれると、ついしゃべってしまう。こんなに話す気はなかったのに」と言われるようになりました。このときです。初めてこの仕事に向いているのかなと思ったのは。

インタビューなどでもよく聞かれるのですが、コミュニケーションにおいて技術的なことを意識しているわけではありません。しかし、気を付けていることはあります。

まずは相手を色眼鏡で見ないこと。皆さんも初めて会う人には、うわさなどを聞いて先入観があると思います。私も事前にスタッフからいろいろと聞かされることが多い。でも、それは人の見方。自分はまっさらな気持ちで対峙（たいじ）することが大事。どんな人にも「あなたの話を聞きたい」と、〝好き好きオーラ全開〟で迎えます。

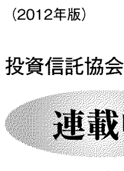
それから、あからさまに相手の話を否定しないこと。自分の考えもあるので、聞いていると「ちょっと違う」と思うことがありますが、否定してしまうと会話は途切れる。まず共感してみると、会話はスムーズです。

たかがコミュニケーションですが、されどコミュニケーションです。国際化が進む中、ますます話す・聞く・調整する筋力を持った人たちが求められる。間違いなく重要なスキルといえます。ぜひ皆さんもコミュニケーション上手になって、円滑な人間関係を築いてほしいと思います。

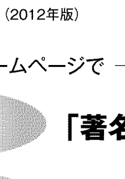
あなたのライフプランに「投資信託」、考えてみませんか？

時間を有効活用してリスクを小さく。
【資産の分散】【長期の保有】【時間の分散】
投資信託はあなたの資産運用のお役にたちます。

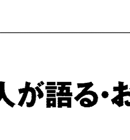
ガイドブックプレゼント（各１冊セット）　無料



（2012年版）



（2012年版）



ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。
ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。
（お届けまで2週間程度かかる場合があります。）

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル6階　一般社団法人 投資信託協会 NI係

※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

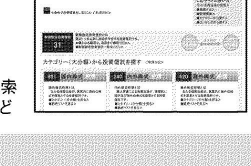
携帯電話はこちら

投資信託協会ホームページで

連載中　「著名人が語る・お金のはなし」が始まりました。

新機能　投信総合検索ライブラリー
- 交付目論見書の閲覧
- 基準価額の検索やリターン計算
- 取扱販売会社や販売会社別手数料の検索など

［投信総合検索ライブラリー］



投信協会　一般社団法人 投資信託協会　www.toushin.or.jp　投資信託協会　検索